

PETRI HALF セブン 7

18 × 24mm



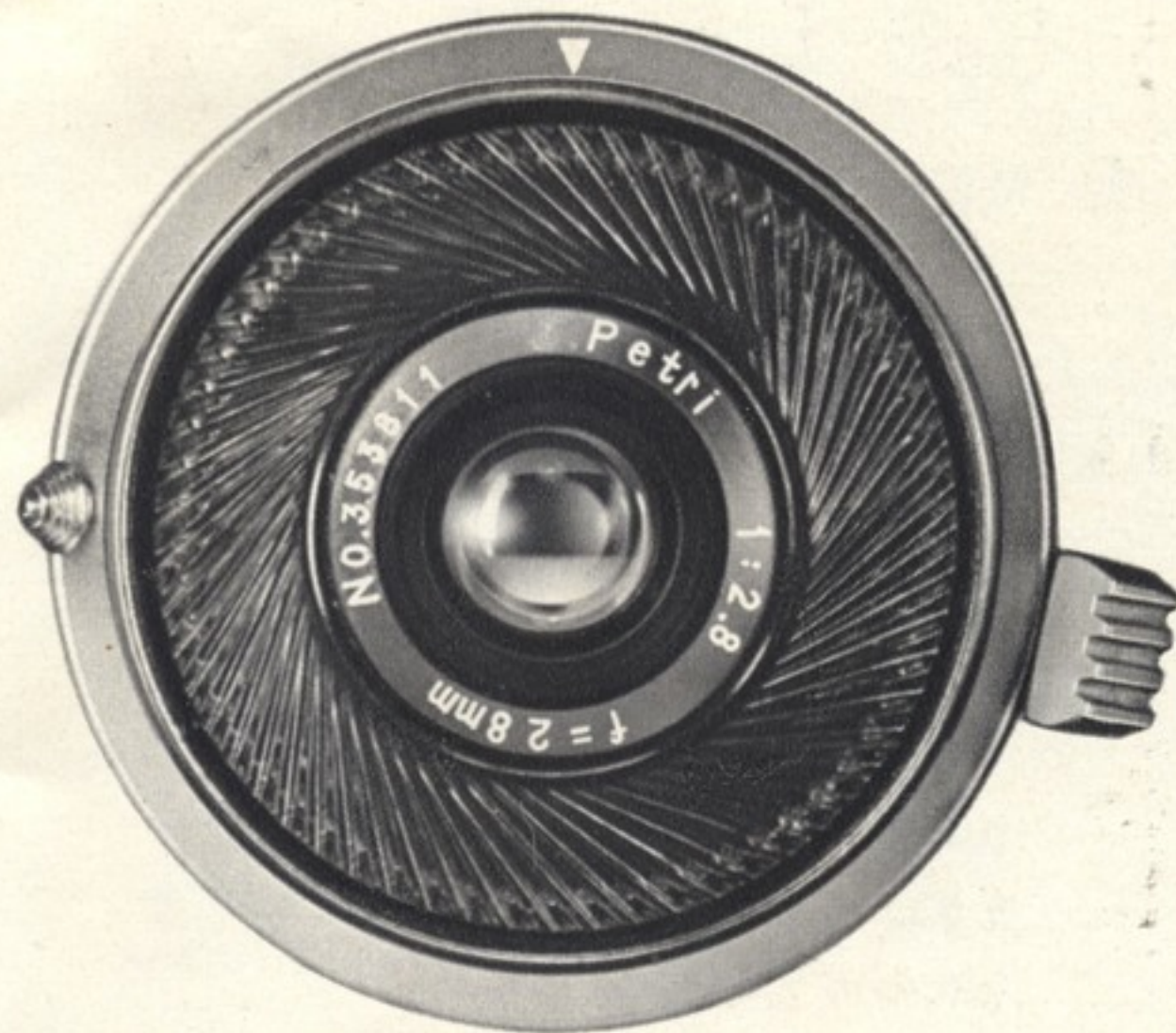
INSTRUCTION BOOKLET

性能表

使用フィルム	35ミリフィルム 40枚または 72枚撮り
画面サイズ	18×24ミリ (ハーフ判)
レンズ	ペトリF2.8 28ミリ アン バーコーティング
シャッター	ペトリS 光量値シャッター LV 8~17 (F2.8・ $\frac{1}{30}$ ~ F22・ $\frac{1}{250}$) X接点 JIS B型
露出機構	完全自動露出式 (EE) シャ ッター速度と絞り無段階調節
ファインダー	採光窓式ブライトフレーム (0.5倍) 視差補正指標付ブル ーファインダー 視野内に露 出計連動範囲指示マーク
焦点調節	ファインダー内指示式ゾーン フォーカシング
フィルム巻上	ボデー下部のダイヤルによる 1作動 セルフコッキング 順算式自動復元フィルム枚数 計
その他	クランク式フィルム巻き戻し シンクロ撮影専用絞り目盛付 裏蓋開閉式 二重露出防止
寸法	103.6×72×43.5ミリ
重量	340グラム

ペトリハーフ

セブン



カメラ **¥8.800** ケース/¥1.000
●グリップバンド付

7つの特長

その1

一番軽くて小さなハーフカメラ

テレビもラジオも超小型のトランジスタがもてはやされ、自動車もコンパクトカーが世界的に歓迎される時代です。カメラにも小型軽量のコンパクト化が望まれています。そんな要求にピッタリしたカメラ、それがペトリハーフセブんです。

重さはわずか340グラムです。

上衣のポケットや、ハンドバッグに入れて、いつでも気軽に持ち歩いてください。そして偶然のチャンスにめぐり合ったら、のがさずキャッチしてください。



その 2

経済的で実用性十分のハーフサイズ

画面サイズは18×24ミリで、35ミリ判の半分です。20枚撮りのフィルムなら40枚、36枚撮りなら72枚と2倍も写せ、現像料やベタ焼代は半分ですみます。カラーフィルムではハーフサイズ用のマウントが各フィルム会社に用意されており、35ミリ判と全く同様なスライド映写を2倍もたのしめます。

黑白写真では手札やキャビネはもちろん、四切に引伸しても粒子が荒れたり、画質の悪くなるおそれがありません。

右頁の写真はベタ焼きと四切に引伸した部分写真です。



その 3

露出は全部カメラまかせの新方式EE

明るい被写体は小さな絞りで速いシャッター、暗い被写体は大きな絞りで遅いシャッターと、理想的な露出の組合せを、カメラの電子頭脳が計算し、LV 8～LV 17の広範囲にわたって自動的に無段階にセットしてくれるのが、新方式のエレクトリック・アイです。

今までのEEカメラでは、シャッターをあらかじめセットしておかなければならなかったのですが、この新方式EEでは全く目盛を使う必要がなくなりました。



その 4

フィルターの露出倍数計算がいら ない サークル・アイ機構

黄色は2倍、赤色は8倍というように、フィルターには露出倍数というものがあって、使用するときにはそれだけ余分に絞り目盛をズラさなければならぬのが普通です。ところがペトリーフセブンは、サークル・アイの露出計受光部ごとフィルターでおおってしまいますから、改めて露出倍数をしらべたり、目盛を動かす面倒がありません。使用フィルターの露出倍数を知らなくても、カメラがちゃんと計算してくれるのです。



その 5

距離の分る絵が見える

ブルー・マジック・ファインダー

撮影範囲がくっきりと分るブライトフレームや近距離撮影のための視差補正マーク付の明るく見やすいファインダーです。

全体に淡いブルーに見えますがこれは暗い被写体を明るく見せる効果があります。

視野の中央に半身像、3人の全身像、山岳の絵が焦点調節レバーの回転に応じて次々に表われ、ピント合せが簡単にできます。また視野の上部には露出計連動範囲を指示する指針、指標が見えます。



その 6

スナップ向きのシャープな
ペトリF2.8 28ミリレンズ

ペトリF2.8 28ミリはすばらしい描写力をもったレンズです。写角は56度で35ミリ判カメラでいえば40ミリの準広角にがい当します。もちろん、開放でも周辺まで極めてシャープであり、カラー撮影にも絶好です。

短焦点ですから被写界深度（鮮明に写る範囲）が極めて深く、ピントを気にする必要のない点、スナップにはもってこいのカメラといえましょう。焦点調節はボデー前面のレバーで行います。



その7

シンクロフラッシュ撮影も
手動絞りで簡単に行えます

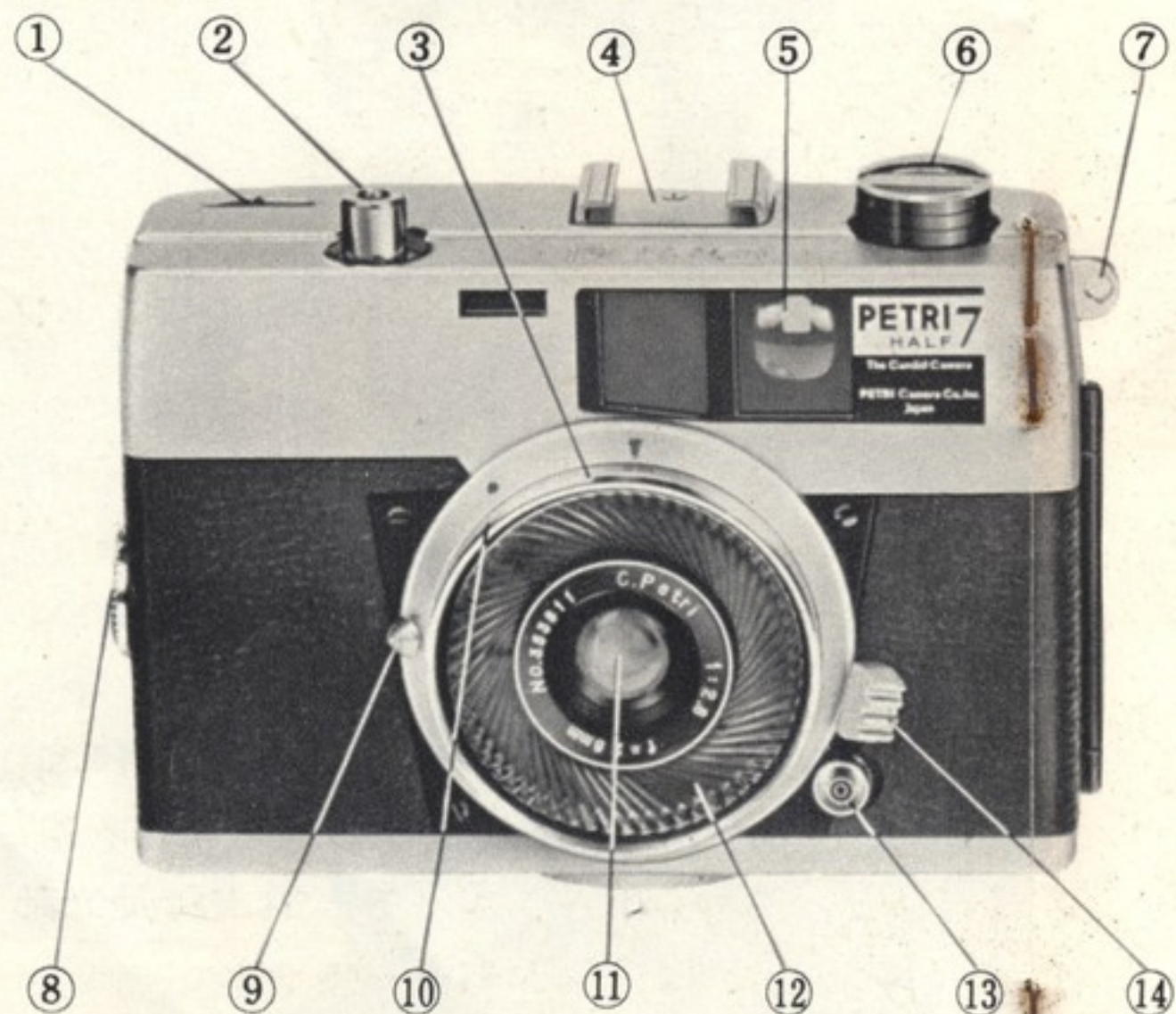
絞りもシャッター速度もすべてが自動的に動くペトリーフセブンですが、シンクロ撮影の場合のために、手動絞り機構がつけられています。

電球・電光マークのわきの絞り目盛に指標を合わせるだけで、絞りが実際に必要なF値まで絞られ、普通のカメラと同様にそのままシンクロ撮影がたのしめます。

手動絞りの場合のシャッターは $\frac{1}{30}$ 秒に一定していますから、ストロボ、閃光電球共に同調します。



各部の名称

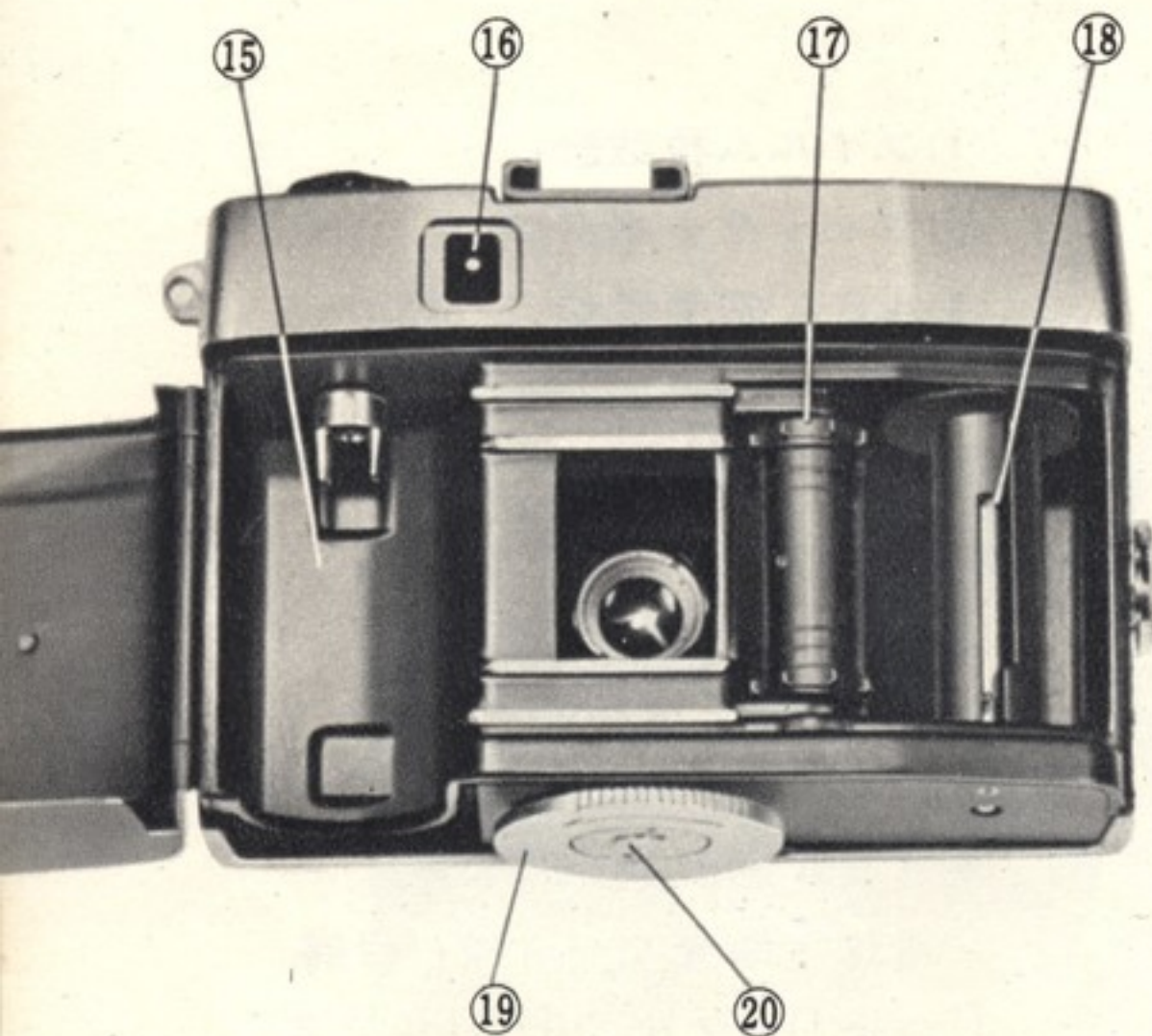


- ①フィルム枚数計
- ②シャッターボタン
- ③ASA感度目盛
- ④アクセサリシュー
- ⑤ブルー・マジック・スコープ
ファインダー
- ⑥巻戻レクラック
- ⑦吊環
- ⑧裏蓋開閉ノブ 0-開 1-閉
- ⑨ASA感度調節つまみ
- ⑩電球・電光マーク絞り目盛
- ⑪ペトリF2.8 28ミリレンズ
- ⑫サークル・アイ露出計受光部
- ⑬シンクロターミナル
- ⑭焦点調節レバー

フィルム巻上げダイヤルの 操作

カメラを両手でしっかり持ったら、右手の親指をフィルム巻上げダイヤルのギザギザにかけ、矢印の方向に止まるところまで回わして離します。（巻上角90度）これで1コマ分のフィルムが巻上げられ、同時にシャッターがセットされます。

■完全に止まる所まで回わせば、ダイヤルは元に戻ります。不完全だと元に戻りませんから回わし直してください。



⑮パトローネブロック
ス

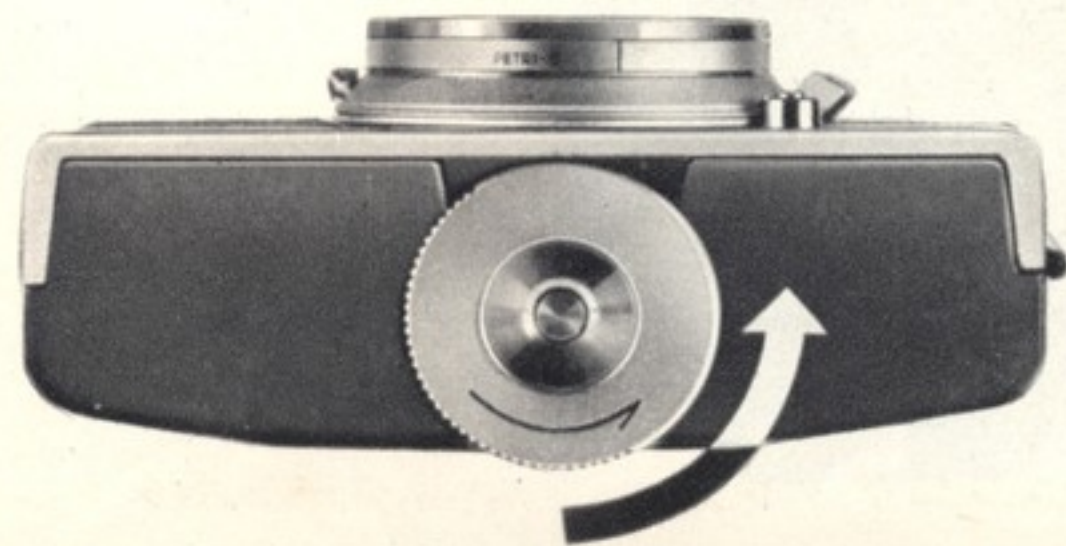
⑯アイピース

⑰スプロケット

⑱巻取りスプール

⑲フィルム巻上げダ
イヤル

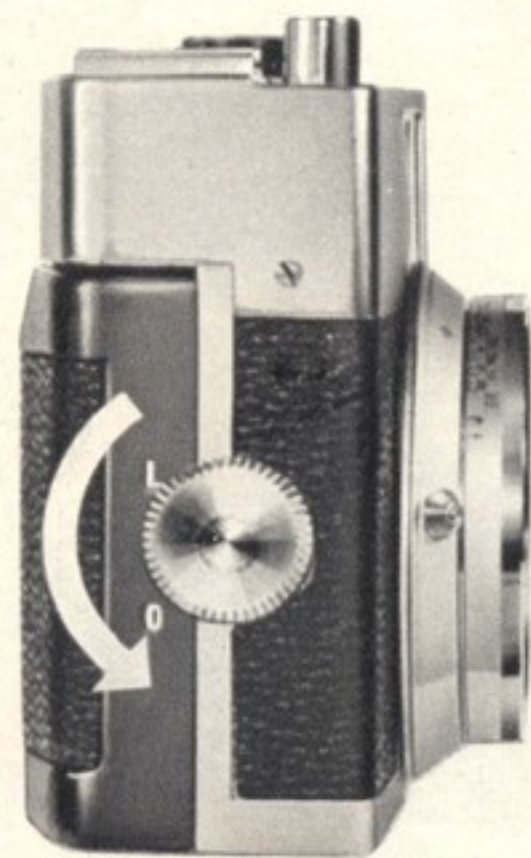
⑳リターンボタン



裏蓋のあけ方

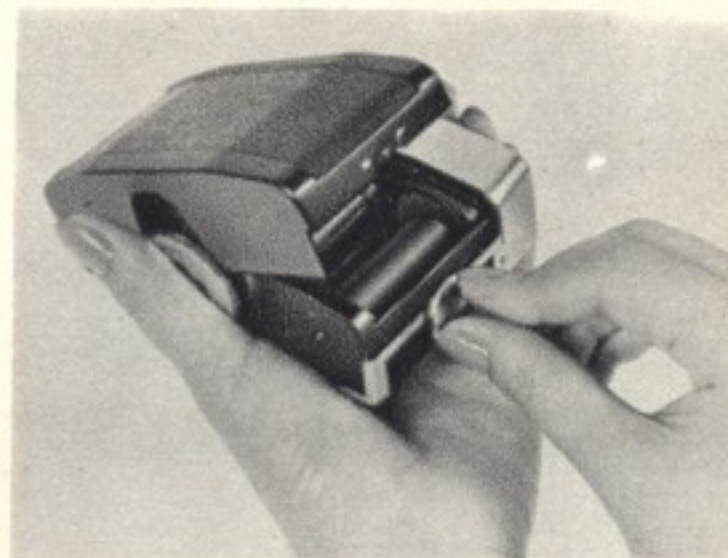
カメラ側面の裏蓋開閉ノブに指をかけて回し、赤ポチを0印に合わせれば、裏蓋がスプリングの力で開きます。

閉める場合は反対に裏蓋をしっかりと押さえたまま、裏蓋開閉ノブを回わして赤ポチをL印に合わせればよいのです。

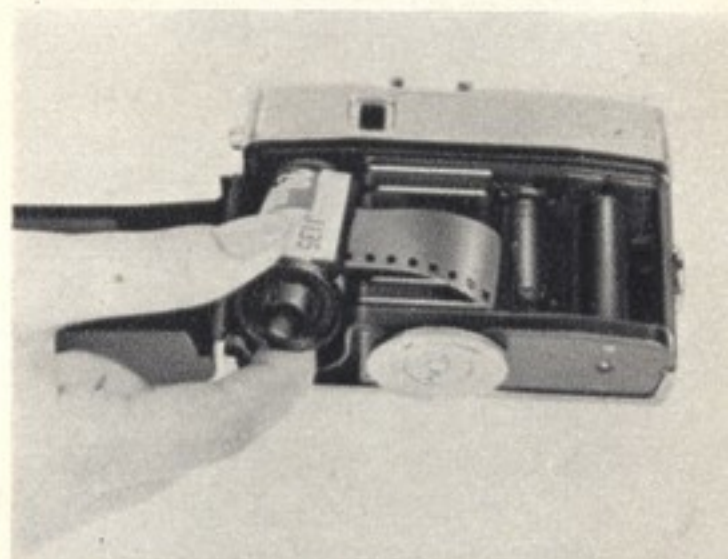


フィルムの入れ方

- パトローネ入り35ミリフィルムを使用します。
- フィルムの出し入れは直射日光下をさけ日陰で行ってください。

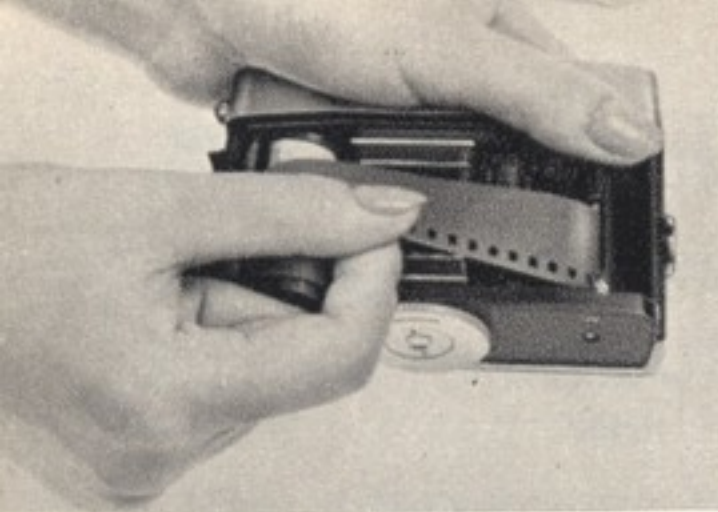


裏蓋をあけます。

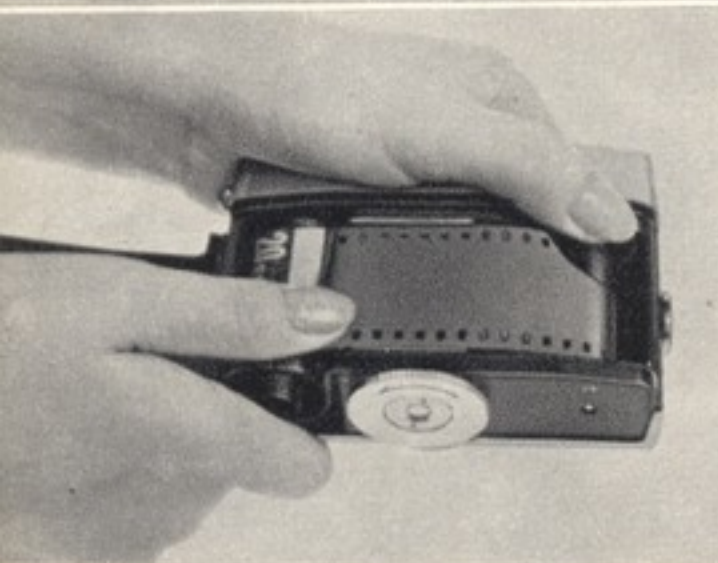


フィルムをパトローネボックスに落しこみます。

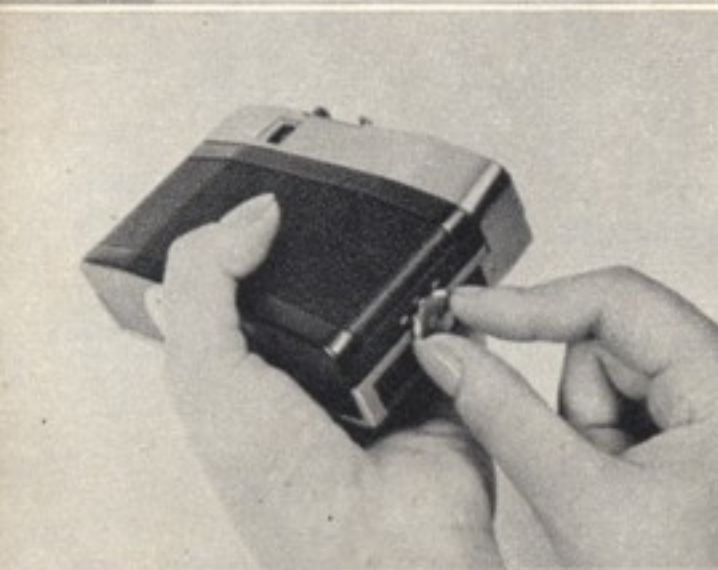




フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこみパーフォレーション（爪孔）を溝の凸起にひっかけます。



スプールのつばに指をかけて少し巻きます。

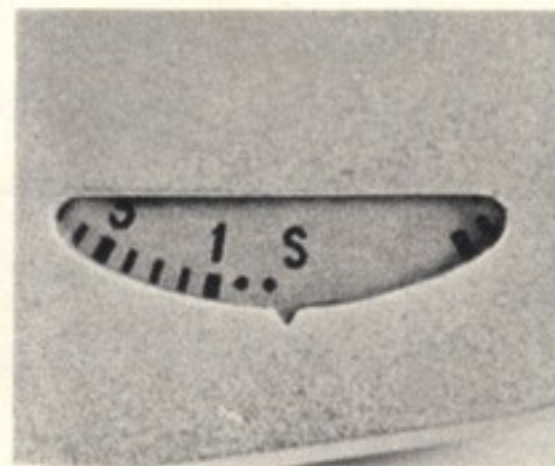


パーフォレーションとスプロケットの歯がカミ合っているのを確認した上で裏蓋を閉めます。

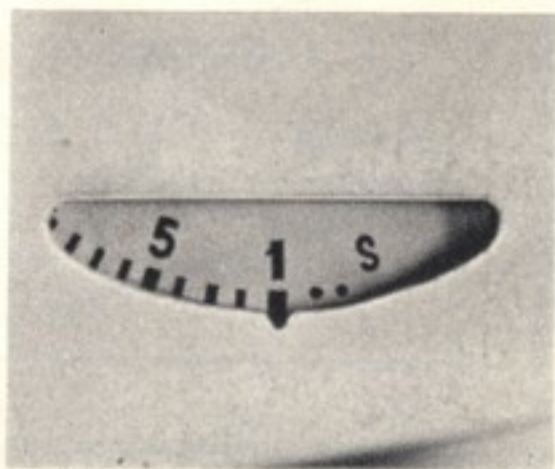
フィルムのNo. 1を出すには

裏蓋を閉じたら、巻上げダイヤルを巻きシャッターを切って空写しします。この操作を2回繰返えし、3回目の巻上げで1枚目の撮影状態になります。このときフィルム枚数計はNo. 1に合っています。

裏蓋を閉めたとき、フィルム枚数計はS印に合っています。



3回目の巻上げでNo. 1に合います。



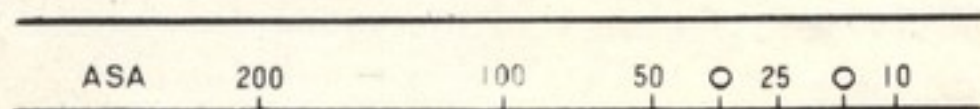
新方式エレクトリック・アイ の使い方

フィルムを装てんしたら、ASA感度目盛を合わせておきます。

レンズ枠の外側にある数字を見ますと、ASA 200 100 50 (32) 25 (16) 10と刻まれています。これはASA感度を示す数字で、使用フィルムがSSなら100、SSSなら200の所に、ASA感度調節つまみを回わして指標(▲印)を合わせます。

たったこれだけの操作で、あとはファインダーをのぞいてシャッターボタンを押しさえすれば全部適正露出が得られます。

ASA感光度は使用フィルムの外箱や使用表に書いてあります。



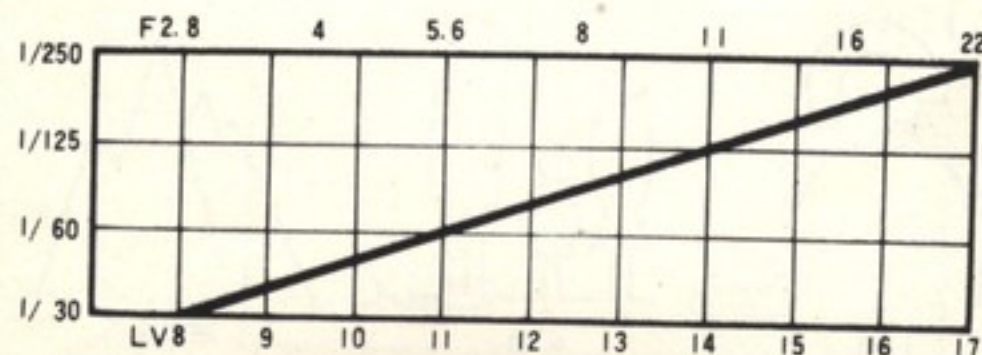
■無段階調節の

新方式エレクトリック・アイ

とは……

絞りとシャッター速度がF2.8・ $\frac{1}{30}$ 秒からF22・ $\frac{1}{50}$ 秒の間で、連続、無段階に変わって露出がきまるもので、暗いときは絞りが開いてシャッター速度が遅く、明るいときは小絞りになってシャッター速度が速くなります。これがすべてオートマチックに働くわけで、その変化は下図の太線のように組合わされています。

露出計連動範囲：LV8～LV17

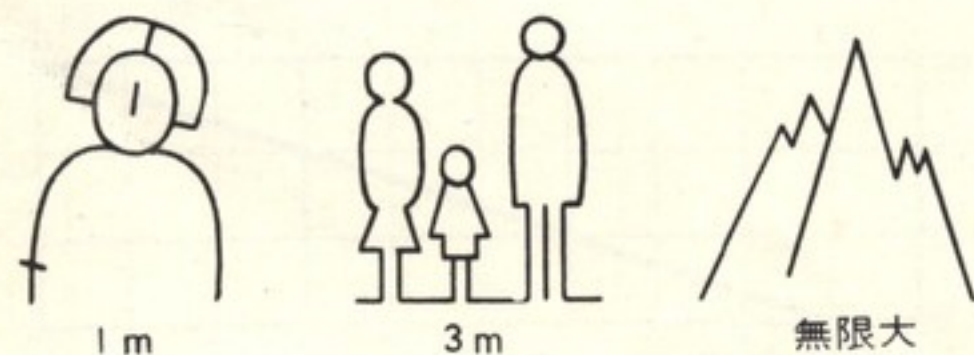


ピントの合わせ方

ファインダーをのぞいて視野中央の絵を見ながら、焦点調節レバーを動かしてみてください。近景(1 m)では人物の半身像、中景(3 m)では3人の全身像、遠景(無限大)では山岳が表われます。それぞれがクリック・ストップになっています。

被写体までの距離に応じて、3つの絵のどれかに合わせればよいのです。(ゾーンフォーカシング)。

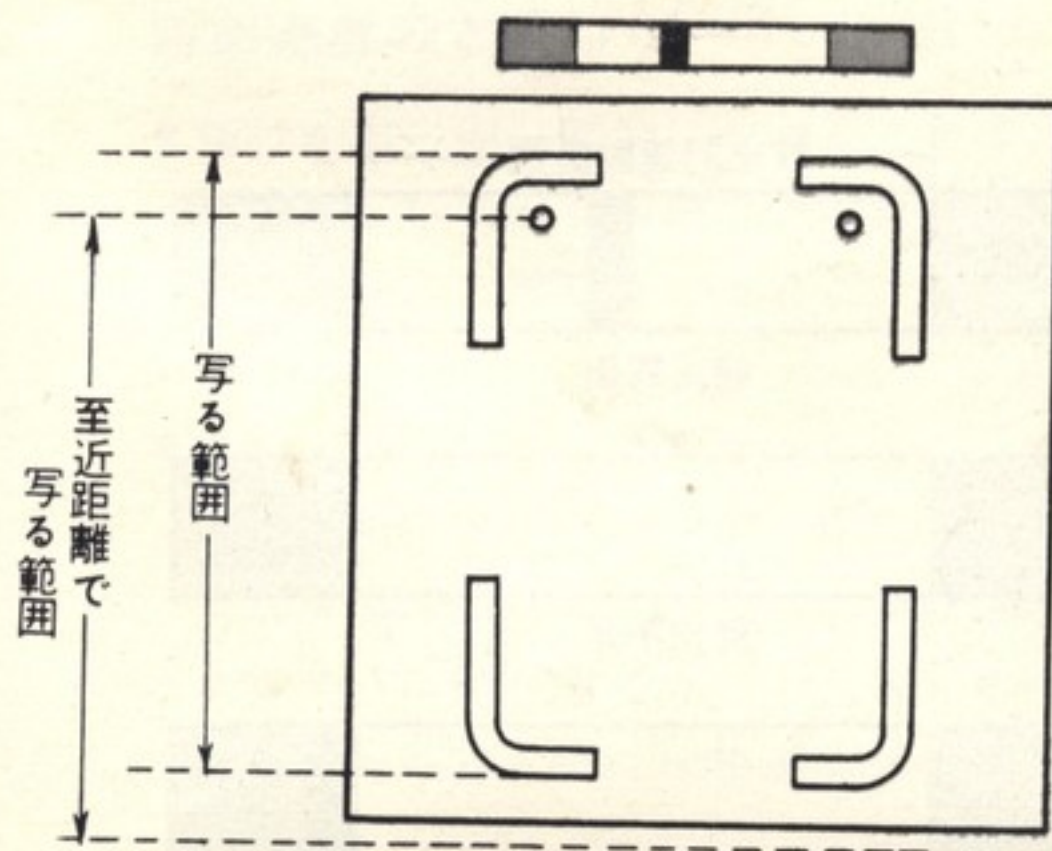
ペトリーフセブンのレンズは焦点距離がわずか28ミリですから、被写界深度(ハッキリ写る範囲)が極めて深く、これだけの調節で十分シャープな写真が得られます。



ファインダーののぞき方

ファインダーをのぞきますと、明るいフレーム(枠)が見えます。この枠の範囲が実際に写ります。

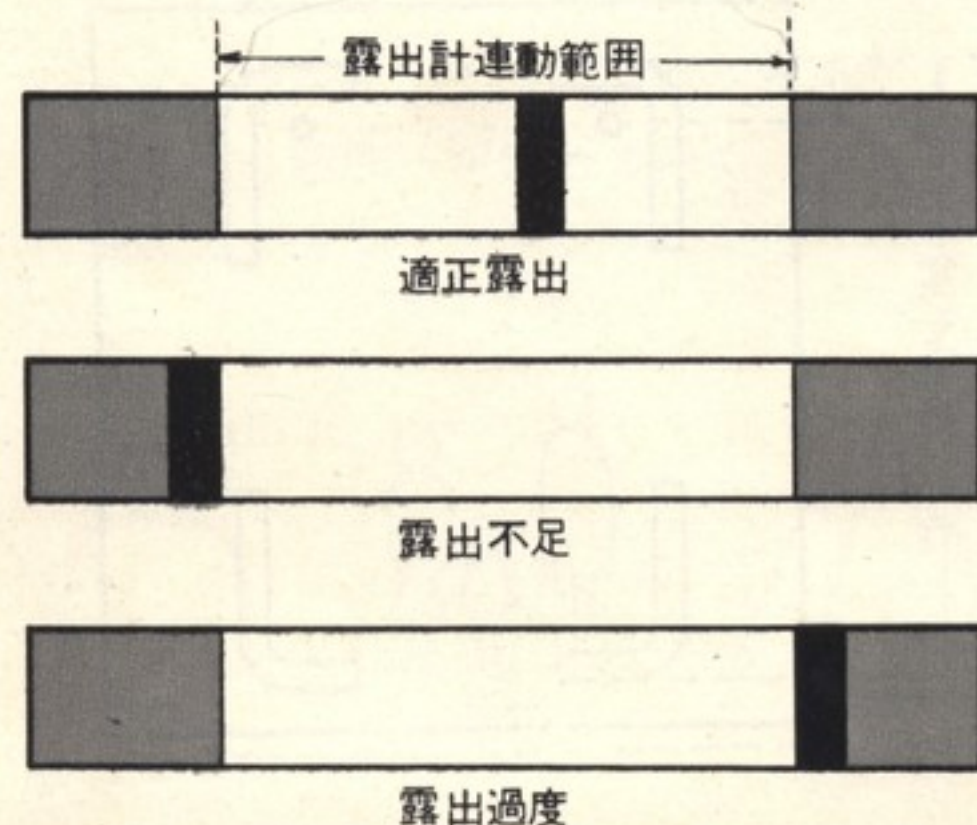
ただし、至近距離ではパララックス(視差)のため頭の方が欠けるおそれがありますから、枠内の上方にある丸印までのぞき方をズラしてください。



ファインダー視野内指針 について

ファインダー視野の上方にある青い針は、露出計連動範囲を示す指針で、これが両わきの赤い部分にかからない限りは、EE機構が完全に働いていることを示しています。

(指針が赤い部分にかかるときは、極端に明るい場合極端に暗い場合で、露出計の連動範囲外であることを指示しています。)



露出不足のときは……

- こんな場合はめったにないと思いますが指針が左の赤い部分にかかるときは、F 2.8 $\frac{1}{50}$ 秒でもなお露出不足になるほど極端に暗い被写体であることを意味します。
- この場合は更に感光度の高いフィルムを用いるか、シンクロ撮影を行わなければなりません。

露出過度のときは……

- 指針が右の赤い部分にかかるときは、F 22 $\frac{1}{50}$ 秒でもなお露出過度になるほど極端に明るい被写体であることを意味します。
- この場合はNDフィルターあるいは濃い色のフィルターを用いて、露出倍数をかければ撮影できます。ただし濃い色のフィルターは被写体のコントラストを強くしますから、人物には不適當な場合があります。

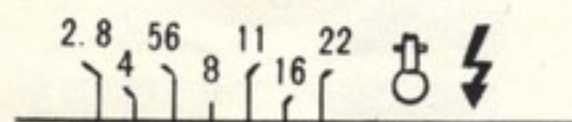
カメラの構え方

カメラを両手でしっかり持ち、カメラの背をヒタイや鼻につけて、シャッターを静かに押します。

両ひじは余り張らないように、両足は軽く開いて体全体を安定させましょう。



シンクロフラッシュ撮影



閃光電球の発光とシャッターの開口を同調させ、暗い所でも動体を明るく写しとめるのがシンクロフラッシュ撮影です。

シンクロフラッシュ撮影を行うときは、ASA感度目盛のわきにある、電球・電光マークの絞り目盛（赤文字）にASA感度用の指標を合わせます。この場合はEE機構は解除され、目盛通りに絞られます。この場合のシャッター速度は $\frac{1}{50}$ 秒に一定しています。

使用する閃光電球はF級でもM級でも、ストロボでも完全に同調します。

フィルムの出し方

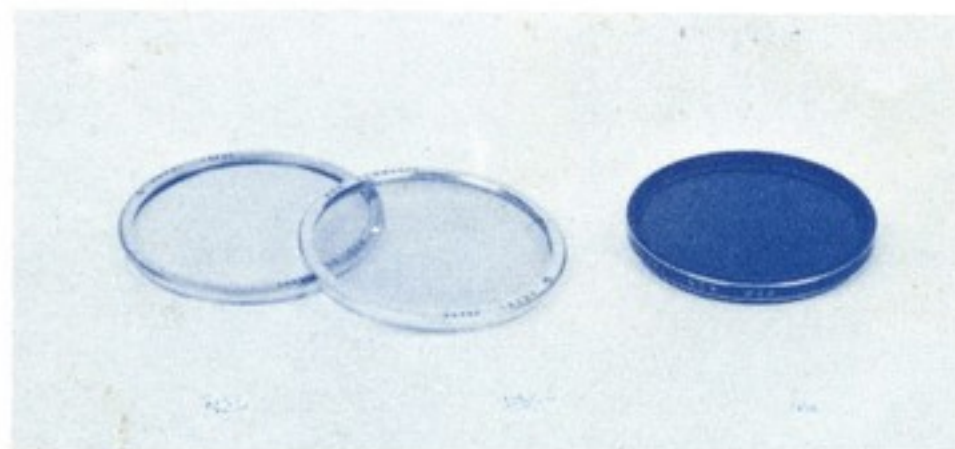
撮影が終わったらフィルムを巻戻さなければなりません。

カメラ底部のリターンボタンを押したまま、巻戻しクランクを起こして矢印の方向へ回わします。



急に手ごたえが軽くなった所で裏蓋を開きフィルムを取出します。

ペトリハーフセブンのフィルター



金属枠付40.5ミリのねじこみ式専用フィルターは、露出倍数の心配なしに、そのままEE撮影ができます。

UV・無色、紫外線カット用。

Y1・淡黄色、戸外人物を自然な感じにします。

Y2・黄色、青空を適度に落す風景撮影用フィルター。

YA3・橙色、遠景の強調用。

R1・赤色、赤外撮影用、遠景の強調用。

カラー用・W4（温調用）、C4（冷調用）

C8（フラッシュ用）、C12（写真電球用）

PETRI PETRI PETRI PETRI

PETRI
PETRI
PETRI



PETRI
PETRI

PETRI PETRI JAPAN

ペトリカメラ 株式会社

本社・工場 東京都足立区梅島町 1

東京センター 東京都千代田区九段 2 - 5

大阪センター 大阪市南区鰻谷西之町 11 - 4

名古屋センター 名古屋市中区鶴重町 1 - 5

ペトリカメラ・コーポレーション・オブ・ヨーロッパ

ペトリカメラ・コーポレーション・オブ・オキナワ